

星川だより

秋

WORLD CUP
KUMAGAYA



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

毎日新聞学芸部記者・栗原俊雄氏の講演
「熊谷大空襲と東京大空襲」常夏記者の取材ノートから
を聴いて

清水海隆



8月25日に栗原俊雄氏による講演を聴く機会を得た。氏は、東京大空襲の犠牲者が埋葬された場所を明らかにするため、日々取材活動を継続している新聞記者である。

1945年3月10日の東京大空襲では一晩で10万人の方々が犠牲になったと言われるが、『東京都戦災誌』によれば、そのご遺体は約150か所の仮埋葬地に埋められたそのうである。そして、終戦を迎えて3年、1948年になってようやくやくご遺体を掘り起こして埋め替える改葬作業が始まり、3年間にわたって続けられた

とのことである。しかし、「戦災死者改葬事業始末記」によれば、改葬作業が行われた場所は71か所であり、仮埋葬地の過半はそれがどこか不明であり、また、判明している場所でもそれを公言することに消極的なところも多いとのことである。

当日の資料として用意された、栗原氏の筆になる2015年3月の毎日新聞記事「遺体10万悲しみの改葬」には、1951年の墨田区内での改葬作業の様子が紹介されていた。「集団腐敗した人間の屍臭は一種異様」であり、その中で「作業にあたったのは50〜60人の日雇い労働者」であり、「空襲で夫を亡くした女性が懸命に遺骨を探す姿」が見られたという。実に、サンフランシスコ講和条約が締結されて連合国との間での戦争状態が終結し、その一方で旧・日米安保条約が結ばれた陰で、東京大空襲の後処理が行われていたことは驚きである。現在、空襲被害者の

遺骨は東京・両国の都慰霊堂に収められているが、年2回のみ中に入れるとのことであるが、もとは震災記念堂として関東大震災の犠牲者のための施設であり、戦後空襲犠牲者を合葬したものである。天災と人災を合わせる為政者の感覚がよく理解できない。

さて、東京大空襲は日本の首都に対する無差別爆撃として私たちの記憶に深くインプットされているが、その他にも多くの方々がこの戦争の犠牲となっている。栗原氏は、硫黄島・沖縄を含む海外での戦没者240万人に注目している。このうち帰還127万柱に対して未帰還113万柱。未帰還中30万柱は海没、23万柱は相手国の事情により収容困難、とのことである。戦後日本は厚生

労働省の下で遺骨収集事業が行われている。栗原氏は複数回硫黄島での遺骨収集活動に参加したそうであるが、その実態はご遺族・関係者による篤志ボランティアであったそうである。未帰還者の過半が帰還できないままにはどれだけの歳月が必要なのだろうか。日本は経済的には貧困国家ではないはずであり、アジア各地で遺骨収集を行う力はあるはずである。100兆円を超える国家予算の一部をそれに充てることに異論を唱える国民は少ないのではないだろうか。行政の不作为が問われてならない。

(立正大学教授)



74年たっても戦争終わらず
空襲被害者 100万人以上
本誌に収録された「熊谷大空襲」の取材ノートは、栗原俊雄氏の著書『熊谷大空襲』(2015年刊)の取材ノートから選り抜いたものである。本書は、熊谷大空襲の被害者とその家族の苦闘を描き、戦後74年たっても戦争が終わらない理由を明らかにしている。本書は、熊谷大空襲の被害者とその家族の苦闘を描き、戦後74年たっても戦争が終わらない理由を明らかにしている。

著者 栗原俊雄
発行 毎日新聞学芸部
発行所 毎日新聞学芸部
発行日 2019年10月
発行部数 100部
定価 1,000円(税別)
ISBN 978-4-8008-0112-1

熊谷大空襲の取材ノート
栗原俊雄 著
毎日新聞学芸部 発行
発行日 2019年10月
発行部数 100部
定価 1,000円(税別)
ISBN 978-4-8008-0112-1

当日は毎日新聞とj.comの取材があり、j.comでは講演会の様子が放映され、毎日新聞では8月31日の埼玉版に掲載されました。

負の歴史と

向き合わない国

米田主美

日本は負の歴史と向き合わない国だと常々思ってきた。今

こじれている日韓関係も然り過去に犯した自国の罪を謙虚に反省しようとしなさい。もし、誠実に取り組んでいたらとしたり、負の歴史をもっと報道したり、後世に伝える努力をしてきたら。若者の投票率を憂いているが、戦争や侵略の歴史を大人がしっかりと伝えていたらもっと危機感を抱いているはずである。

八月二十五日、熊谷で毎日新聞記者栗原俊雄さんに講演をお願いした。実例を聞きながら日本がいかに戦後処理に向き合わない国かということがわかった。ドイツ、イタリア、フランス、アメリカでも自国民の全ての戦争犠牲者に対し国が賠償責任を果たしているところ。ところが日本では軍人には恩給という特別措置がとられていて一般の犠牲者には賠償は、一切なされていない。孤児になった人達の裁判判決も「受忍」という言葉で覆されていた。戦争だから国民は「忍

を「受けよ」ということなのだろうか。では、戦争を始めた人は誰なのかということである。戦争責任を明確にしないまま七十年余が過ぎていくことがこの国の「病」なのではないかと思う。



今年も市が主催する関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式に参加した。大正十二年九月一日、マグニチュード七・九の巨大地震が発生した。翌日、震災の不安を煽るかのように「朝鮮人が放火している」「朝鮮人が井戸に毒を入れている」という謂れない流言飛語が広がった。そして政府は東京を中心に戒厳

令を敷いた。混乱の中、官憲や自警団が朝鮮人など(中国人や朝鮮人と間違われた日本人を含む)罪のない人々を虐殺した。私が現在住んでいる熊谷市でも六十人、本庄市でも八十人を殺害している。

熊谷市では毎年、市長の代替わりがあっても追悼式を続けてきた。今年も市長、市議会議長、議員の大半、朝鮮総連、民団、市民の人たちが白いカーネーションを持って追悼した。市長や議長の挨拶の中には「正しい歴史認識を持つて後世に伝えると共に」「私たち熊谷市民はこの不幸な出来事を忘れてはいけません」と、きちんとした反省の言葉が述べられていた。これに対し、北朝鮮、韓国の代表者からは取り組みに対し感謝の言葉が述べられた。踏みじった歴史の

事実には言い訳はない。加害者はひたすらあやまり続けるのが人道というものだろう。(熊谷空襲を忘れない市民の会共同代表)



～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしく申し上げます。なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321

加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会

口座名称カナ: クマガヤクシュウワス

レナイシミンノカイ

他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 〇一九店(019)

預金種目: 当座

口座番号: 0265321

会計報告(2019/06/19~2019/09/24)

収入: 42,330円

支出: 38,452円

残高: 93,515円

編集委員 吉田庄一 米田主美

連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)

メール imajn241@gmail.com

HP <http://www.peace-kumagaya.org/>

熊谷空襲75周年記念誌出版企画について

・出版物の概要・

第1章 熊谷空襲の全貌

空襲前、空襲時、空襲後、復興

第2章 体験者へのインタビュー

インタビューアーに高校生を予定

第3章 座談会

市内在住の有識者

第4章 熊谷空襲以外の空襲を通して戦争と平和について考える

第5章 熊谷空襲を忘れない市民の会の創立とあゆみ

添付資料 年表、戦災地図、戦跡地図など

「星川だより」の編集に参加しませんか

熊谷空襲を忘れない市民の会の会報「星川だより」は本号で12号となります。私たちの活動や、平和についての投稿記事など、多くの方のご協力のもと発行しています。企画・編集に参加してくれる人を募集します。

熊谷平和講座

熊谷平和講座

戦後の日韓関係を総括する

熊谷空襲を忘れない市民の会では、毎月一回、加藤一夫さんを講師に平和について学んでいます。今回はその21回目になります。どなたでも参加できます。

過去の講座(最近6回)
第15回 アシオリズムについて 第18回 空襲の歴史と空襲被災者(再論)
第16回 代わりを考ふる 第19回 戦後70年(1945年)出版にも立ち戻る
2019年度に
第17回 移民・難民・外国人労働者問題 第20回 ボセユリスム

日時: 10月14日(月・祝)14時~15時半

場所: 熊谷市 市民活動支援センター 会議室
熊谷市東町6-67(熊谷駅徒歩約10分)

講師: 加藤一夫さん

熊谷市在住。元群馬福祉大学学長、名誉教授。
熊谷空襲を忘れない市民の会顧問。

参加費: 無料(カンパ歓迎)

問合せ: 070-5551-7734 (ひがし)

主催: 熊谷空襲を忘れない市民の会
(HP: <http://www.peace-kumagaya.org/>)

<11月の熊谷平和講座>
11月18日(土)8時半~市民活動支援センター 講師: 加藤一夫さん
第22回熊谷平和講座(テーマ未定) 無料

熊谷空襲を忘れない市民の会では、月1回「熊谷平和講座」を開催しています。奮っての参加をお願いします。